

## 第 3 期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

評価者	委員
評価日	2022 年 月 日

### 評価項目：

#### ①研究開発の達成度(成功・不成功の原因の把握・分析)

<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

- ・第 3 期中長期計画では、地層処分の実現に必要な基盤研究開発の着実な実施、使用済燃料直接処分の調査研究の継続を通じて、地層処分計画に基づいた地層処分事業に貢献することとしている。また、令和元年度末までの深地層の研究施設計画の成果の取りまとめ、ならびに令和 2 年度以降の計画への取り組みを行うこととしている。
- ・深地層の研究施設計画、地質環境の長期安定性に関する研究、地層処分放射化学研究施設等を活用した研究を着実に進め、それらの成果が、国の「科学的特性マップ」(平成 29 年 7 月公表)、NUMO の「包括的技術報告書」(令和 3 年 2 月公表)などに反映され、国及び NUMO が進める地層処分事業に貢献した。
- ・直接処分では、ガラス固化体での技術や経験を直接処分での設計等に適用できる見通しを得るとともに、代替処分オプションとしての超深孔処分の適用性・成立性の観点から重要となる留意点や課題等を具体化した。これらの成果は、将来に向けての幅広い選択肢の確保に貢献することが期待できる。
- ・令和元年度末までの深地層の研究施設計画における成果の取りまとめを行い、必須の課題報告書として公表(令和 2 年 3 月)するとともに、第 3 期中長期計画期間内の成果については、網羅性・追跡性を確保しつつ、CoolRep R4 として取りまとめた。これらの取りまとめは、地層処分技術の発展や理解向上に大きく寄与するものである。

以上のとおり、第 3 期中長期計画に基づき、成果の取りまとめを踏まえつつ、基盤研究開発を着実に進め、これらの成果が、国の「科学的特性マップ」や NUMO の「包括的技術報告書」に反映され、地層処分事業の大きな進展をみたことから、自己評価を「A」とした。

## 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

### ①研究開発の達成度（成功・不成功の原因の把握・分析）

<評価の結果>

評価結果/ 評価指標  (いずれかに○ を記載するか 選択ください)	S :特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。 A :顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度 120%以上) B(標準) :成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度 100%以上 120%未満) C :一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%以上 100%未満) D :抜本的見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%未満)
コメント	

※評価にあたっては、<評価の結果>の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

## 第 3 期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

### 評価項目：②当初の研究開発計画の妥当性

＜評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果＞

<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 3 期中長期計画では、地層処分の実現に必要な基盤研究開発の着実な実施、使用済燃料直接処分の調査研究の継続を通じて、地層処分計画に基づいた地層処分事業に貢献することとしている。また、令和元年度末までの深地層の研究施設計画の成果の取りまとめ、ならびに令和 2 年度以降の計画への取り組みを行うこととしている。</li> <li>・当該計画に基づき、基盤研究開発を着実に進め、それらの成果が、国の「科学的特性マップ」（平成 29 年 7 月公表）、NUMO の「包括的技術報告書」（令和 3 年 2 月公表）などに反映され、国及び NUMO が進める地層処分事業に貢献できた。</li> <li>・また、令和元年度末に 2 つの深地層の研究施設計画の成果を取りまとめ、必須の課題報告書として公表するとともに、令和 2 年度以降の深地層の研究施設計画に基づき、瑞浪については、賃貸借期間までに坑道の埋め戻し、地上施設の撤去を完了した。また、幌延については、計画に基づいた研究を着実に進めた。</li> </ul> <p style="margin-top: 20px;">上記のように、第 3 期中長期計画に沿って研究開発を進めた結果、我が国の将来的な地層処分計画立案に資する研究成果を創出するなど、当初の計画に基づいた成果が得られたことから、自己評価を「B」とした。</p>
--

### 評価項目：②当初の研究開発計画の妥当性

＜評価の結果＞

評価結果/ 評価指標  (いずれかに○ を記載するか 選択ください)	S : 特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。 A : 顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度 120%以上) B(標準) : 成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度 100%以上 120%未満) C : 一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%以上 100%未満) D : 抜本的見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%未満)
コメント	

※評価にあたっては、＜評価の結果＞の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

## 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

### 評価項目：③研究開発成果の効果・効用（アウトカム）の把握・普及の程度

<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

- ・研究開発成果については、国内外の学会発表(801件)、報告書類の刊行(226件)、論文投稿・掲載(439件)に加え、Webを活用した情報発信や、プレス発表(18件)を行い、積極的な成果の普及に努めることで、地層処分の技術基盤の整備・提供を着実に進めてきた。このうち地質環境情報の整備結果等については、「科学的特性マップ」の作成に資する基盤的な情報として活用され、国における議論の過程、結果に重要な役割、貢献を果たすことができた。また、NUMOが作成した「包括的技術報告書」には、現在までに進めてきた、機構の多くの研究開発成果が活用(178件)されており、処分事業に貢献した。
- ・また、新型コロナウイルス感染症の影響下における効果的な理解促進活動の新たな試みとして、幌延深地層研究センターでの研究を紹介する動画や「ゆめ地創館」案内動画の制作・公開を進めるほか、深地層の研究施設計画に関する成果報告会及び住民説明会をライブ配信し、対面での情報発信に限られる中でも確実な情報発信を行った。
- ・地質環境の長期安定性に関する研究においては、高速増殖原型炉「もんじゅ」敷地内破碎帯調査の支援において、上載地層法が適用できない断層調査に対して一つの指針を与える評価事例を示した。これは原子力発電所の再稼働に向けた安全審査など、地層処分以外の分野にも貢献できる特筆すべき成果である。
- ・この他、世界で初めて、「坑道周辺の酸化抑制メカニズムの解明」や「汎用的な装置を活用して人工的に岩盤中の割れ目をずらす原位置試験手法の開発」を行うほか、「深成岩の冷却や隆起過程の調査・評価技術の新たな手法の開発」を行い、天然ガス・石油の地下貯蔵等の地下利用分野の課題解決等に広く貢献した。

以上のように、処分事業等に活用可能な成果を創出するとともに、研究開発成果の提供により国の施策に貢献していることから、本項目についての自己評価を「A」とした。

### 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

#### 評価項目：③研究開発成果の効果・効用(アウトカム)の把握・普及の程度

＜評価の結果＞

評価結果/ 評価指標  (いずれかに○ を記載するか 選択ください)	S  A  B(標準)  C  D	:特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。  :顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度 120%以上)  :成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度 100%以上 120%未満)  :一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%以上 100%未満)  :抜本的見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%未満)
コメント		

※評価にあたっては、＜評価の結果＞の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

### 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

#### 評価項目：④若手研究者の育成・支援への貢献の程度

<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学大学院工学系研究科原子力専攻(専門職大学院) および連携大学院での講義、夏期実習生の受け入れ(74名)、特別研究生の受け入れ(30名)に加え、文部科学省国際原子力人材育成イニシアティブ事業(オープン教材の作成・活用による実践的バックエンド教育(H26-29))への協力等を行った。平成30年度には、関係する研究開発機関と共同で地層処分に関する「平成30年度人材育成セミナー」を開催した。</li> <li>・NUMOとの共同研究の枠組みでNUMOの若手技術者を東海の研究施設に受入れる等、実施主体の人材育成にも貢献した。さらに、国際機関が主催するセミナーの開催や国外の大学院の講義・実習の受け入れなど国外の人材の育成にも貢献した。</li> <li>・この他、機構内では、部門内の若手研究者・技術者を対象に、新たな研究開発・技術開発のスタートアップ支援を行い、研究者・技術者の育成・強化を図るとともに、今後の研究・技術開発に向けて、より視野を持ってもらう機会とするため、若手職員を中心とする技術交流会を開催した。</li> </ul> <p style="margin-top: 20px;">以上のように、機構が有する研究設備、人材、研究開発成果を活用し、次世代の地層処分研究開発を支える人材の育成に貢献していることから、本項目についての自己評価を「B」とした。</p>
--	--

#### 評価項目：④若手研究者の育成・支援への貢献の程度

<評価の結果>

評価結果/ 評価指標  (いずれかに○ を記載するか 選択ください)	S : 特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。 A : 顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度120%以上) B(標準) : 成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度100%以上120%未満) C : 一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%以上100%未満) D : 抜本的見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%未満)
コメント	

※評価にあたっては、<評価の結果>の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

## 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

### 評価項目：⑤将来への研究開発の展開、新たな課題への反映の検討

<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3期中長期計画期間での中間評価において、「これまでに蓄積された膨大なデータや情報を活用した新たな視点からの研究開発にも挑戦することを期待」、「幌延の地下研究施設を最先端の地層処分技術を実証するプラットフォームとして国内外に広く提供・活用されることを期待」といったご意見をいただいている。前者については、ビッグデータを活用したデジタルツイン技術の基盤整備として、次期中長期計画に反映し取り組んでいく。</li> <li>・一方、後者については、幌延深地層研究センターの国際拠点化という大きな飛躍に向けて、その足掛かりとして国際共同プロジェクトの立上げに向け、準備会合への参加募集を行った。</li> </ul> <p style="margin-top: 20px;">以上のことから、本項目についての自己評価を「A」とした。</p>
---

### 評価項目：⑤将来への研究開発の展開、新たな課題への反映の検討

<評価の結果>

評価結果/ 評価指標  (いずれかに○ を記載するか 選択ください)	S : 特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。 A : 顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度120%以上) B(標準) : 成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度100%以上120%未満) C : 一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%以上100%未満) D : 抜本の見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%未満)
コメント	

※評価にあたっては、<評価の結果>の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

## 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

### 評価項目：⑥国内外他機関との連携の妥当性

<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

#### 【国外機関との協力】

- ・研究協力については、国際水準の技術力の維持向上、機構の研究機関としての中長期的な視点に立った国際的な人脈形成や機構内の人材育成等の観点を念頭におきつつ、国内で実施中の研究開発との相互補完的な役割を重視して、参加すべきプロジェクトの取捨選択を行ってきている。
- ・具体例として、国際共同プロジェクト(DECOVALEX)、スイスグリムゼル地下研究施設における国際共同プロジェクトを行い、外部の研究資源も活用しつつ、地下研等の試験研究の結果と統合し、成果の最大化につなげている。さらに、アジアの近隣諸国との関係では、台湾電力作成の「使用済燃料の最終処分のための技術的適用性評価報告書」に関する国際レビューの実施のほか、韓国や台湾との技術検討会や情報交換会、講演等を行ってきた。

#### 【国内機関との協力】

- ・NUMO、電中研及び原環センターとは研究協力協定を有し、定期的な会合によりそれぞれの機関での研究開発の状況や協力の状況を確認しながら、「地層処分研究開発に関する全体計画」に基づく適切な役割分担のもと、研究を進めてきている。特に、電中研とは、瑞浪での原位置トレーサ試験、幌延における掘削影響領域の観測技術の開発等について、原環センターとは、幌延での搬送・定置試験、地中無線によるモニタリング、東海でのオーバーパックの腐食研究等で多くの成果を創出する一方、平成27年度以降は、資源エネルギー庁の委託事業を共同で受託し、基盤研究全体の最大化に向けた努力をしていっている。NUMOとの共同研究については、平成28年度より東海の研究施設にNUMOの若手技術者を研究協力員として受け入れ協働することを通じて、技術の継承と人材育成にも貢献してきている。

上記の通り、国際共同プロジェクトへの参画や、国内外の研究開発機関等との共同研究を積極的に進め、研究資源の相互補完的な活用を進め、全体として効率的かつ効果的な研究開発成果を創出し、研究成果の最大化が図られていることから、本項目についての自己評価を「A」とした。

### 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

#### 評価項目：⑥国内外他機関との連携の妥当性

＜評価の結果＞

評価結果/ 評価指標  (いずれかに○ を記載するか 選択ください)	S  A  B(標準)  C  D	:特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。  :顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度120%以上)  :成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度100%以上120%未満)  :一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%以上100%未満)  :抜本的見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%未満)
コメント		

※評価にあたっては、＜評価の結果＞の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

## 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

### 評価項目：⑦イノベーション創出への取組の妥当性

<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

	<p>・瑞浪、幌延の深地層の研究施設や地層処分基盤研究施設、地層処分放射化学研究施設を活用して、大学や研究機関に加え民間企業との協力・連携を進め、互いの知見、技術、評価手法等を相補的に活用し、効率的な研究開発を推進した。これらの成果は、地層処分技術の信頼性向上に寄与するとともに、地層処分以外の研究分野や工業技術分野等にも貢献している。</p> <p>・具体的には、「高水圧下でも適用可能な湧水抑制技術の開発」、「湧水対策が困難な地質坑道を地上から把握する方法の開発」、「汎用的な装置で地下の岩石の割れ目をずらす原位置試験手法の開発」、「地下深部の割れ目の水野流れやすさに関わる法則性の発見」などの成果は、一般土木分野、石油・天然ガスの地下貯蔵等の地下利用分野への貢献が、また、「光合成由来のエネルギー源に依存しない地底生態系の解明」に関する成果は、地球微生物学への貢献が期待できる。その他、「岩盤が有する遅延機能に関する新たな発見」、「坑道閉鎖環境において物質の移動を抑制する現象の解明」、「坑道周辺の酸化抑制メカニズムの解明」などについては、地層処分の安全評価上重要な知見となるものである。</p> <p>上述のとおり、大学や研究機関等との協力・連携の観点、他分野への応用・展開の観点においても、実効的な取り組みが行われ、顕著な成果が得られていると判断できることから、自己評価を「A」とした。</p>
--	--

### 評価項目：⑦イノベーション創出への取組み

<評価の結果>

<p>評価結果/ 評価指標  (いずれかに○ を記載するか 選択ください)</p>	<p>S : 特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。</p> <p>A : 顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度 120%以上)</p> <p>B(標準) : 成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度 100%以上 120%未満)</p> <p>C : 一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%以上 100%未満)</p> <p>D : 抜本的見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%未満)</p>
<p>コメント</p>	

※評価にあたっては、<評価の結果>の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

### 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

#### 評価項目：⑧社会実装の達成度、取組の妥当性(技術・知識基盤プラットフォームの構築・提供を含む)

<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤研究開発を着実に進め、それらの成果が、国の「科学的特性マップ」(平成 29 年 7 月公表)、NUMO の「包括的技術報告書」(令和 3 年 2 月公表)などに反映され、国及び NUMO が進める地層処分事業に貢献した。</li> <li>・深地層の研究施設計画においては、法律で定められた最終処分場の深度(300m 以深)までの地下空間を調査・評価し、そこに地下施設を建設維持できることを実証するという所期の目的を達成し、それらの成果を必須の課題報告書として取りまとめるとともに、NUMO が処分事業においてサイト選定や処分場の設計及び安全評価を進める上で必要な技術基盤としてそれらの研究成果を提供した。</li> <li>・第 3 期中長期計画期間のこれらの成果については、地層処分に関心のある様々なユーザーが Web 上で欲しい情報をスムーズに取り出すことのできる Web 上のレポートシステム(CoolRepR4)として取りまとめることで、地層処分技術の発展や理解向上に大きく寄与する。</li> <li>・また、プレス発表した「高水圧下でも適用可能な湧水抑制技術の開発」、「深成岩の冷却や隆起過程の調査・評価技術手法の開発」、「汎用装置を活用した人工的に岩盤中の割れ目をずらす原位置試験手法の開発」などの成果は、大規模地下構造物の建設やトンネルなどの湧水対策に関わる土木分野への活用、天然ガス・石油の地下貯蔵等の様々な地下利用分野の課題解決等に広く貢献可能な成果と考える。</li> </ul> <p>以上のことから、実施主体は勿論、関連する一般土木分野等に波及効果を及ぼす顕著な研究成果を創出したことから、本項目についての自己評価を「A」とした。</p>
---

#### 評価項目：⑧社会実装の達成度、取組の妥当性

<評価の結果>

評価結果/ 評価指標  (いずれかに○ を記載するか 選択ください)	S :特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。 A :顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度 120%以上) B(標準) :成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度 100%以上 120%未満) C :一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%以上 100%未満) D :抜本的見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度 80%未満)
コメント	

※評価にあたっては、<評価の結果>の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

### 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

#### 評価項目：⑨科学技術政策、社会的・経済的意義／ニーズへの適合性

<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

・平成29年7月に「科学的特性マップ」が公表され、令和2年11月には文献調査が開始し、さらにエネルギー基本計画では、国、NUMO、JAEA等の関係機関が全体を俯瞰して、総合的・計画的かつ効率的に技術開発を着実に進めること、その際、幌延の深地層研究施設等における研究成果を十分に活用していくことが明記された。

このように地層処分事業の大きな進展をみたことから、科学技術政策、社会的意義等については、自己評価を「A」とした。

#### 評価項目：⑨科学技術政策、社会的・経済的意義／ニーズへの適合性

<評価の結果>

評価結果/ 評価指標  (いずれかに○ を記載するか 選択ください)	S :特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。 A :顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度120%以上) B(標準) :成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度100%以上120%未満) C :一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%以上100%未満) D :抜本の見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%未満)
コメント	

※評価にあたっては、<評価の結果>の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

### 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

#### 評価項目：⑩研究開発課題／成果の社会的受容性(社会へ及ぼす影響度の想定)

<評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

<p>・国民との相互理解の促進の活動として、2つの深地層の研究施設を積極的に活用し、定期施設見学会を開催しており、見学後や説明後に地層処分技術に関する理解が深まったなどの意見をいただいている。関係自治体や報道機関への施設公開などを進めるとともに、NUMOが主催する一般の方々を対象とした見学会に協力した。</p> <p>・外部機関が主催する科学イベント等に出展し、子どもをはじめとした広い年齢層に科学や地層処分について興味や関心をもってもらう活動を展開した。国やNUMOが主催するシンポジウム及び意見交換会等に研究者・技術者を派遣し、一般の方々や専門家、報道関係者等の参加者と意見交換を行い、地層処分に関する相互理解促進のための活動に協力している。</p> <p>以上のように、当初計画に沿って国民との相互理解促進を進めてきていることから、自己評価を「B」とした。</p>
--

#### 評価項目：⑩研究開発課題／成果の社会的受容性

<評価の結果>

<p>評価結果/ 評価指標 (いずれかに○ を記載するか 選択ください)</p>	<p>S :特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。</p> <p>A :顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度120%以上)</p> <p>B(標準) :成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度100%以上120%未満)</p> <p>C :一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%以上100%未満)</p> <p>D :抜本の見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%未満)</p>
<p>コメント</p>	

※評価にあたっては、<評価の結果>の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

### 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

#### 評価項目：⑪人材育成に関する取組の妥当性(原子力を担う人材、イノベーション・デジタル化を担う人材等)

##### <評価の観点に関する実績・成果及び自己評価結果>

<p>・人材育成への貢献として、スーパーサイエンスハイスクールへの講師派遣、東京大学大学院工学系研究科原子力専攻(専門職大学院) および連携大学院での講義、夏期実習生の受け入れ(74名)、特別研究生の受け入れ(30名)に加え、文部科学省国際原子力人材育成イニシアティブ事業(オープン教材の作成・活用による実践的バックエンド教育(H26-29))への協力等を行った。平成30年度には、関係する研究開発機関と共同で地層処分に関する「平成30年度人材育成セミナー」を開催した。</p> <p>・NUMOとの共同研究の枠組みでNUMOの若手技術者を東海の研究施設に受入れる等、実施主体の人材育成にも貢献した。さらに、国際機関が主催するセミナーの開催や国外の大学院の講義・実習の受け入れなど国外の人材の育成にも貢献した。</p> <p>以上のように、機構が有する研究設備、人材、研究開発成果を活用し、次世代の地層処分研究開発を支える人材の育成にも積極的に貢献が行えていることから、本項目についての自己評価を「A」とした。</p>
---

#### 評価項目：⑪人材育成に関する取組の妥当性(原子力を担う人材、イノベーション・デジタル化を担う人材等)

##### <評価の結果>

<p>評価結果/ 評価指標 (いずれかに○ を記載するか 選択ください)</p>	<p>S : 特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。</p> <p>A : 顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度120%以上)</p> <p>B(標準) : 成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度100%以上120%未満)</p> <p>C : 一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%以上100%未満)</p> <p>D : 抜本的見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%未満)</p>
<p>コメント</p>	

※評価にあたっては、<評価の結果>の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。

## 第3期中長期目標期間中における研究開発の成果（事後評価） 評価シート

### ①～⑪の総合評価

＜評価の結果＞

評価結果/ 評価指標 (いずれかに○ を記載するか 選択ください)	S  A  B(標準)  C  D	:特に顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。  :顕著な成果の創出や将来的な特別な成果の創出の期待等が認められる。(達成度120%以上)  :成果等の創出に向けた着実な進展が認められる。(達成度100%以上120%未満)  :一層の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%以上100%未満)  :抜本的見直しを含め特段の工夫・改善の必要性が認められる。(達成度80%未満)
コメント		

※評価にあたっては、＜評価の結果＞の評価指標欄のいずれかに○を付けていただき、その補足としてコメントをご記入をお願いします。